

## 建物の沿革

この建物は、日本生命保険株式会社の九州支店として、明治42(1909)年に竣工しました。建物が建つこの場所は、明治時代中頃まで福岡城下町の入口である柵形門があり、まさに福岡の玄関口でした。旧唐津街道(現 昭南通)に面した角地にそびえるこの建物は、現在も天神のランドマークとなっています。

この建物の設計者は、東京駅などを設計した辰野金吾工学士と片岡安工学士です。中央部にドームを載せて小塔や屋根窓を多彩に配した屋根と、赤い煉瓦に白い花崗岩の帯を装飾的に使った外壁は、華やかに街角を彩っています。このスタイルは、辰野博士がロンドンに留学していた19世紀末にイギリスで流行したクイーン・アン様式の応用として「辰野式」フリー・クラシック様式と呼ばれています。

保険会社としての役目を終えたのち、昭和44(1969)年3月には、明治洋風建築を代表するものとして、国の重要文化財に指定されました。平成2(1990)年まで福岡市立歴史資料館として活用されたのち、平成6(1994)年2月から市民に開かれた文化施設「福岡市赤煉瓦文化館」として開館しました。

外観や館内は、建築当時の仕様に復元整備されており、明治時代の雰囲気を楽しむことができます。



大正時代～昭和時代前期の様子



## 施設案内

福岡市赤煉瓦文化館は、館内を自由に見学できるほか、市民の交流の場として活用されています。1階はエンジニアの交流拠点である「エンジニアカフェ」やカフェスペース、2階は文化活動を行うことができる会議室(有料)を設置しています。



開館時間：午前9時～午後10時

休館日：毎月最終月曜日(祝日の時は翌平日)、12月29日～1月3日

入館料：無料

### ■ 会議室利用料金

区分	午前9時～正午	午後1時～午後5時	午後6時～午後9時	午前9時～午後5時	午後1時～午後9時	午前9時～午後9時
会議室1(定員12名)	800円	1,600円	1,400円	2,100円	2,800円	3,300円
会議室2(定員8名)	500円	1,000円	800円	1,300円	1,700円	2,000円
会議室3(定員30名)	1,700円	3,400円	3,000円	4,500円	6,000円	7,000円

### ■ 文化財概要

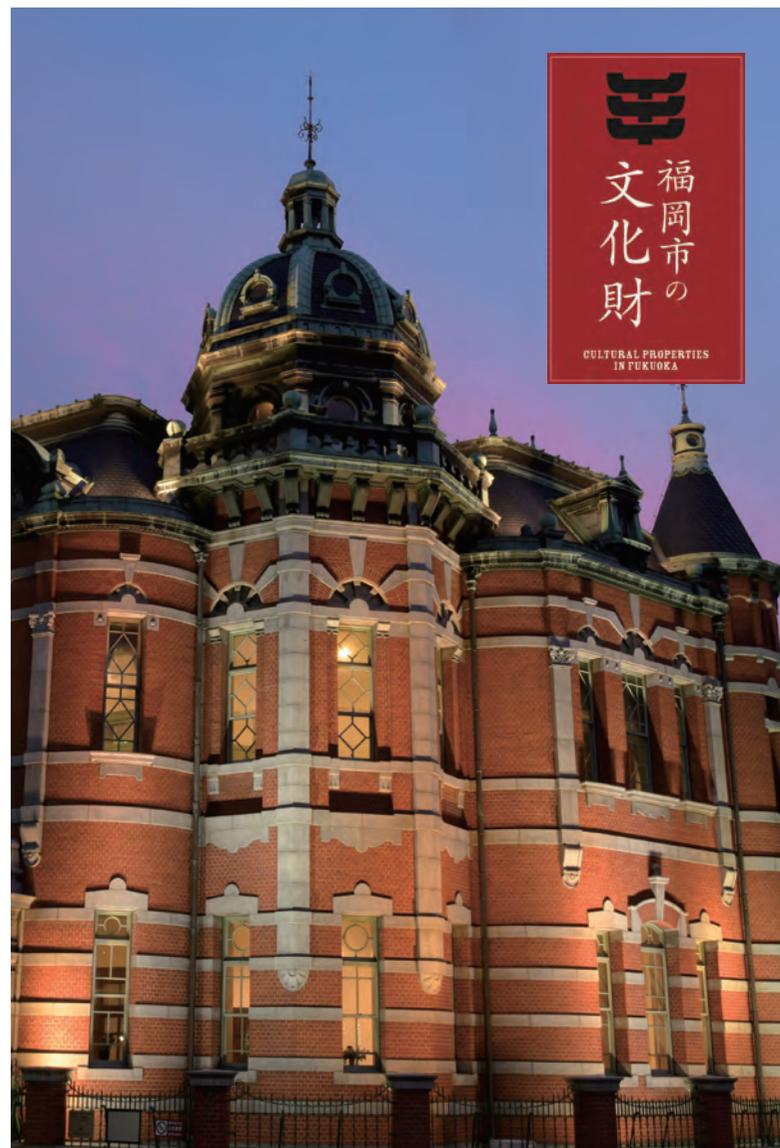
文化財名称	旧日本生命保険株式会社九州支店 附便所1棟、塀1棟、棟札1枚
構造	煉瓦造、2階建、地下1階、中央部塔屋付スレート葺、ドライエリア煉瓦塀付属、便所
面積	敷地面積597.85㎡、建築面積281.8㎡、延べ床面積735.66㎡

### ■ アクセス

所在地	福岡市中央区天神1丁目15番30号
電話番号	092-722-4666
市営地下鉄	「天神」駅下車・徒歩約5分(12番出口)
西鉄バス	「天神4丁目」下車すぐ 「市役所北口」下車徒歩約3分



福岡市経済観光文化局文化財活用課  
TEL:092-711-4666 FAX:092-733-5537



福岡市赤煉瓦文化館  
Fukuoka City Akarenga Cultural Center

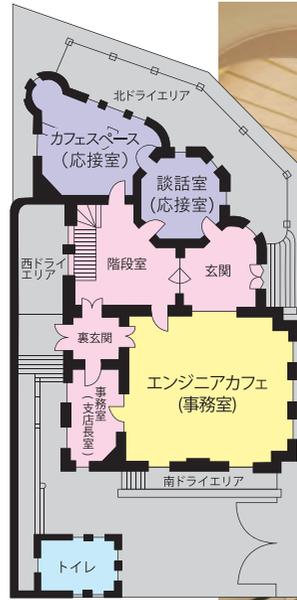
# 館内のみどころ



1F

玄関は、保険会社の顔として顧客を迎えるべく、高い天井と黒白の大理石が配された豪華なつくりになっています。事務室側に設けられた木製カウンターには、建築当時ヨーロッパを中心に流行したアールヌーボー様式がとりいられています。旧唐津街道に面する応接室は、天井の隅部分に凹凸を持つデザインが表現されるなど、応接にふさわしい意匠が施されています。

各部屋には暖炉が設置されており、大理石の種類やデザインは各室の機能に合わせて区別されています。暖炉内部には高温に耐えられるように耐火煉瓦が用いられていることから、単なる装飾としてではなく、空調設備として用いられていたことがわかります。



( )内は創建時の室名



■ 玄関

保険会社の顔にふさわしい重厚感のある玄関ホールは、写真撮影スポットにもなっています。



■ カフェスペース

カウンター付きのカフェスペースでは、レトロな雰囲気味わいながら飲食を楽しめます。



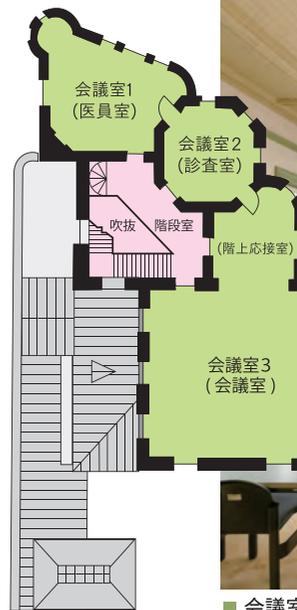
■ エンジンカフェ

最先端のテクノロジーを担うエンジニアの交流の場として、令和元(2019)年8月にオープンしました。

2F

階段室は吹き抜けになっており、広い空間を生み出しています。鉄製の階段や螺旋階段は建築当初からのもので、床を支える鉄骨梁など主要な部分には多くの鉄材が使われています。鉄製の手すりは、戦時中に供出を受けたため復元製作したものです。アールヌーボー風のデザインは当初からのものです。2階には、保険に加入する顧客の健康状態を診察するための医員室と診査室がありました。各部屋のカーテンや暖炉は、医師の格式を示すため、格調高い拵えとなっています。

ひときわ目を引く螺旋階段は、この建物の象徴ともいえるドームを載せた塔屋に続いています。塔屋の用途は不明ですが、旧唐津街道の往來を眺めることができ、当時の人々もここからの景色を楽しんだのかもしれませんが(現在は立入禁止)。



( )内は創建時の室名



■ 会議室3

定員30名の会議室。展示会や演奏会にも利用できます。



■ 会議室1

定員12名の会議室。旧医員室ならではの意匠が各所に施されています。



■ 会議室2

定員8名の会議室。八角形の天井は、漆喰のレリーフに細かな気遣いがみられます。

